

## 実践のまとめ（第2学年 社会科）

小千谷市立片貝中学校 教諭 羽二生 拓也

### 1 研究テーマ

#### 資料を活用し、主体的・協働的に課題解決をする生徒の育成

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されている。また、社会科においては、主体的に社会の形成に参画しようとする態度や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。私自身これまでの授業を振り返ると、生徒同士の意見交流の機会を設定してきたものの、生徒が主体的に資料から情報を読み取り、読み取った情報を基に仲間とともに多面的・多角的に考察したり表現したりする活動の機会が少なかった。

そこで、本実践では、「資料を活用し、主体的・協働的に課題解決をする生徒の育成」をテーマとして設定した。現実の社会と関わりのある課題を設定し、その課題の解決に向けて仲間とともに様々な資料を多面的・多角的に考察して自分の考えを練り上げ、表現する学習活動を行うことを通して、より主体的・協働的に問題を解決しようとする生徒を育成したいと考えた。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 現実の社会と関わりのある課題の設定

生徒自らが社会的事象に関心をもって主体的に追究、解決できるよう、現実の社会と関わりのある課題を取り上げ、課題解決学習を行う。

##### ② 資料から読み取った情報を基に、仲間とともに多面的・多角的に考察する活動の充実

資料から読み取った情報を基に、仲間と意見交換することを通して、より多面的・多角的に考察して自分の考えを練り上げ、表現する。そのよさを実感することにより、主体的・協働的に課題を解決しようとする態度を育成する。

#### (3) 研究テーマに関わる評価

##### ① ワークシートに資料から読み取った情報を基に記述する生徒の割合。

##### ② ワークシートのアンケート項目「仲間と学び合う活動を通して、自分の考えや提案を見直すことができたか」の肯定的評価の割合。

### 3 単元と指導計画

#### (1) 単元名

「中部地方—活発な産業を支える人々の暮らし—」（『新しい社会 地理』東京書籍）

#### (2) 単元の目標

- ・ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解する。

- ・ 産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解する。
- ・ 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部地方について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</li> <li>・ 産業を中核とした考察の仕方を取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部地方において、産業の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中部地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul>

### (4) 単元の指導計画と評価計画（全5時間、本時5／5時間）

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	<b>単元を貫く課題</b> 中部地方では、なぜ各地に異なる産業が発達しているのだろうか？		
	・ 中部地方をながめて	◎中部地方について、地形図や統計グラフなどの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	<b>知・技</b> 三つに分かれる地域の地形や気候、日本最大の工業生産額などの特色を理解している。 【ワークシート】
2 (1)	・ 特色ある東海の産業	◎東海で輸送機械工業や施設園芸農業が発達した理由について考察する。	<b>思・判・表</b> 東海の産業の特色について、人口や貿易、交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。【ワークシート】
3 (1)	・ 特色ある中央高地の産業	◎中央高地で果樹や高原野菜の栽培、精密機械工業が発達した理由について考察する。	<b>思・判・表</b> 中央高地の産業の特色について、自然の特色や交通の発達などを示す資料と関連付けて読み取っている。【ワークシート】
4 (1)	・ 特色ある北陸の産業	◎北陸で稲作や伝統産業が発達した理由について考察する。	<b>思・判・表</b> 北陸の産業の特色について、自然の特色や歴史的な背景などを示す資料と関連付けて読み取っている。【ワークシート】
5 (1) <b>本時</b>	・ 新潟県の農業の課題と対策	◎諸資料から新潟県の農業の課題を読み取り、課題に対する対策について考察する。	<b>思・判・表</b> 資料を活用し、新潟県の農業の課題を読み取っている。【ワークシート】 <b>態度</b> 資料を活用し、課題解決する方法を具体的に記述している。 【ワークシート】

## 4 単元と生徒

### (1) 単元について

中部地方は、東海・中央高地・北陸の三つの地域に分けられ、それぞれの地域で異なる産業が発達している。これは、地形や気候などの自然的要因や人口や交通網などの社会的要因が関係している。この要因について様々な資料を基に考察することは、社会的事象を多面的・多角的に捉える上で重要である。また、現在これらの産業はそれぞれ異なる課題を抱えており、その課題をどう解決していくべきか考察することは、持続可能な社会の形成者として必要な資質・能力を育むことに寄与すると考える。

### (2) 生徒の実態

教師の話を聴いて板書を写すことなどはできるが、自ら思考して課題解決を目指すことは苦手な生徒が多い。そのため、授業では、生徒同士で資料を読み取ったり、小グループで互いに意見を出し合いながら問題に取り組んだりする場面を設定してきた。本単元では、現実の社会と関わりのある課題を提示し、より主体的・協働的に問題を解決しようとする生徒を育成したい。

## 5 本時の展開（令和6年10月29日実施）

### (1) ねらい

資料を基に、新潟県の農業の課題を見出し、その対策について、仲間と協働しながら新潟県、生産者、消費者の視点から考察し、表現する。

### (2) 展開の構想

- ① まず新潟県が抱える農業の課題について資料を基に読み取り、次にその課題を解決する方策について個人で考え、さらに班で話し合う活動を行い、協働的に課題解決ができるよう働きかける。
- ② 生徒が主体的に課題解決に取り組めるように、現実の社会と関わりのある課題を扱うことや、最新の資料を用意し、丁寧に読み取りを行う。

### (3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5分	○新潟県の米の生産量の推移のグラフを読み取る。 ○本時の課題をつかむ。	◎新潟県の米の生産量の推移を示すグラフを提示し、生徒との対話の中で疑問をもたせることで課題設定につなげる。 ・米の生産量が減少している。	◇テンポよく、スムーズに語りかける。
<b>課題 新潟県の農業の課題とそれに対する対策について考えよう！</b>			
展開 35分	○新潟県の農業の課題について、資料から考察する。	◎個人思考を促す。 ◎ペア活動を促す。  ・農家数や農業人口の減少、高齢化が進んでいる。	<b>思考・判断・表現</b> 資料を活用し、新潟県の農業の課題を読み取っている。 【ワークシート】

	<p>○新潟県の農業の課題に対する対策について、資料を参考にしながら考察する。</p> <p>○班ごとに発表者を決め、全体へ発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安い外国産米の輸入量が増加している。</li> <li>・国内米の消費量が減少している。</li> <li>・減反、転作が増加している。</li> </ul> <p>◎「課題の解決に向けて、誰がどのように取り組むことが必要だろう？」と問いかける。</p> <p>◎参考資料を配布し、全体で読み取ったうえで、新潟県、生産者、消費者の視点から考えるように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の意見をワークシートに記入する。</li> <li>・班で意見交換をする。その後、班で良いと思った提案をホワイトボードにまとめる。</li> </ul> <p>◎「お互いの提案の良いところを見つけよう。また、質問や意見を考えながら聴こう。」</p>	<p>○机間巡視を行い、資料の読み取りが苦手な生徒の支援を行う。</p> <p>○読み取ったことを全体で共有し、必要に応じて補足説明を行う。</p> <p>◇質問が出ない場合は教師から質問する。</p>				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>〈農家数の減少・高齢化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験やツアーを企画して、地元の小中学生や都会の若者に農業の楽しさに気付いてもらおう。(県)</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p>〈安い外国産米の輸入量増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の大規模化・機械化を進めて、コスト削減に取り組もう。(生産者)</li> <li>・海外にもっと輸出しよう。(生産者)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;"> <p>〈国内米の消費量の減少〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米粉パンや米菓、お酒など新しい商品を開発したらどうだろう。(生産者)</li> <li>・新潟県産のお米を買うようにしよう。(消費者)</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <p>〈減反・転作の増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕地を買い集めて、転作を進めよう(生産者)</li> </ul> </td> </tr> </table>				<p>〈農家数の減少・高齢化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験やツアーを企画して、地元の小中学生や都会の若者に農業の楽しさに気付いてもらおう。(県)</li> </ul>	<p>〈安い外国産米の輸入量増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の大規模化・機械化を進めて、コスト削減に取り組もう。(生産者)</li> <li>・海外にもっと輸出しよう。(生産者)</li> </ul>	<p>〈国内米の消費量の減少〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米粉パンや米菓、お酒など新しい商品を開発したらどうだろう。(生産者)</li> <li>・新潟県産のお米を買うようにしよう。(消費者)</li> </ul>	<p>〈減反・転作の増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕地を買い集めて、転作を進めよう(生産者)</li> </ul>
<p>〈農家数の減少・高齢化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験やツアーを企画して、地元の小中学生や都会の若者に農業の楽しさに気付いてもらおう。(県)</li> </ul>	<p>〈安い外国産米の輸入量増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業の大規模化・機械化を進めて、コスト削減に取り組もう。(生産者)</li> <li>・海外にもっと輸出しよう。(生産者)</li> </ul>						
<p>〈国内米の消費量の減少〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米粉パンや米菓、お酒など新しい商品を開発したらどうだろう。(生産者)</li> <li>・新潟県産のお米を買うようにしよう。(消費者)</li> </ul>	<p>〈減反・転作の増加〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休耕地を買い集めて、転作を進めよう(生産者)</li> </ul>						
<p>まとめ 10分</p>	<p>○本時のまとめと振り返りを記述し、ペアで発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟県の農業の課題を解決できるように自分なりの考えをもっていきたい。</li> </ul>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に学習に取り組む態度</span> 資料を活用し、課題解決する方法を具体的に記述している。 【ワークシート】</p>				

(4) 評価

- ・資料を活用し、新潟県の農業の課題を読み取っている。【思考・判断・表現】
- ・資料を活用し、課題解決する方法を具体的に記述している。【主体的に学習に取り組む態度】

## 6 実践を振り返って

### (1) 実際の授業から（テーマに迫る手立てから）

#### ① 現実の社会と関わりのある課題の設定

本時では、現実の社会と関わりのある課題を設定するために、まず新潟県の水稲作付面積及び収穫量の推移を示す資料を提示した。すると、生徒は新潟県の水稲作付面積及び収穫量がともに減少していることに気付き、なぜ全国トップクラスの米の生産量を誇る新潟県でさえ生産量が減少しているのか疑問に感じた。そこで、各自で予想を立てた後、資料を4つ配布し、予想を検証した。4つの資料から、生徒は「農家数が減少している」「転作・休耕田が増加している」「米の消費量が減少している」「米の価格が下がっている」「安い外国産米の輸入が増えている」などの課題を見出した。その後、教師から「このまま農家数が減少してもいいのかな」「休耕田が増え続けても大丈夫なのかな」など問いかけたところ、生徒はようやく新潟県の農業の現状に危機感を感じ始めた。そこで、本時の学習課題「新潟県の農業の課題とその対策について考えよう」を提示した。多くの生徒は、今まさに現実の社会で起きている問題で何とか解決しなければと意欲的・主体的に取り組む様子が見られたが、中には、今まで全く考えたこともない課題でどうしたらいいかわからず意欲が低下してしまう生徒もいた。

#### ② 資料から読み取った情報を基に、仲間とともに多面的・多角的に考察する活動の充実

新潟県の農業の課題に対する対策を考えることは非常に難しく、また、生徒の農業に関する既有知識も少ないため、参考資料を4つ配布した。資料Ⅰは「農業を法人化し合理的な生産体系を組んでいる農事組合法人大潟ナショナルカントリーの取組」、資料Ⅱは「行政としてスマート農業の導入に積極的に取り組んでいる長岡市の取組」、資料Ⅲは「米の加工品である米粉について」、資料Ⅳは「海外における日本食や日本産米の評価について」である。これらの資料を全体で読み取った後、教師から「今の資料を参考に、生産者、消費者、行政など、誰がどうすればよいだろう」と問いかけ、まずは各自で自分の考えをワークシートに記述した。次に、班で自分の考えを発表した。その後、班内で意見交換を行いながら、良かった意見を班のホワイトボードに記入した。この班での意見交換を行う中で、生徒は「その意見はどの資料から考えたの」と対策の理由や根拠を聞いたり、「その対策はどういうことか詳しく教えて」と質問したりする様子が見られた。また、生産者、消費者、行政など立場を示すことで、生徒はそれぞれの立場から多角的に考察する様子が見られた。一方、各自で考えた対策を費用対効果で検証したり、実現可能性で検証したりするなどの多面的な考察に至っている班は少なかった。

### (2) 研究テーマに関わる評価

#### ① ワークシートに資料から読み取った情報を基に記述する生徒の割合

本時のワークシートを評価した結果は、次の表1の通りであった。この結果から、資料を活用し、新潟県の農業の課題を読み取ることが十分にできた生徒が多かった一方、資料を活用し、課題解決する方法を具体的に記述することが十分にできた生徒は少なかったことが分かる。これは、農業の課題に関する資料が比較的読み取りやすいものだったのに対して、課題解決の方法に関する資料については、どのように活用すればいいのか生徒が迷ってしまったこと、また、考察する時間が短かったことなどが原因として考えられる。

表 1

評価規準	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)	C (努力を要する)
資料を活用し、新潟県の農業の課題を読み取ることができ る。【思考・判断・表現】	16人	3人	0人
資料を活用し、課題解決する 方法を具体的に記述してい る。【主体的に学習に取り組む態度】	7人	12人	0人

11/4 中部地方の発展学習 2年A組

◎ 新潟県の農業の課題とそれに対する対策について考えよう！

1. 予想 新潟県の農業が減少しているだろう。  
 上米が低価格で売れなくなり、田に種をまきにくくなるから、米を  
 減らす生産者も増えてくるだろう。

2. 課題  
 農家の数が減っている。  
 農料費より 米からの耕作、休耕地が増えている  
 農料費より 米の消費、需要が減少している  
 農料費より 外国産米の輸入量が増えている。

3. 対策 誰が（生産者？消費者？関係者？）どうすべきか具体的に書こう！

誰が	どうすべきか
生産者 (農家など)	・新しい品種を取り入れ、高単収型に特化する ・お米販売会などのイベントを行う
消費者 (私たち)	・米をたくさん食べる。 ・お米のよさを他の人にアピールする。 ・国産米を食べる。
行政 (県や市町村)	・農業に強い味方として、価格で調整するや、休耕地の 農業従事者への支援を促す。

☆学習のまとめ 新潟県の農業の課題に対する対策について、生産者や消費者など複数の視点から具体的に記入しよう。また、その対策を考えた理由を、資料をもとに記述しよう。

例：新潟県の農業の課題を解決するために、私はまず消費者が国産米を中心とした良米を  
 食べるべきだと思います。なぜなら資料③よりお米の需要割合が低下して、資料④より  
 外国産米の輸入が増加しているからです。また、行政が農業をより、農業従事者への  
 支援を促すべきだと思います。なぜなら資料①より農家の数が減少して  
 いるからです。不作のときの保障や特別手当などを整備すれば変へして働けると  
 思うからです。

☆学習の振り返り

	評価項目	よくできた→できなかった
1	新潟県の農業の課題について理解できましたか？	⑤ 4 3 2 1
2	資料を根拠に、新潟県の農業の課題に対する対策を考えることができましたか？	⑤ 4 3 2 1
3	班員と協力して、より良い対策を考えることができましたか？	⑤ 4 3 2 1
4	仲間と学び合う活動を通して、自分の考えや提案を見直すことができましたか？	5 ④ 3 2 1
5	今日の授業の感想などを記入してください。	

自分の地域の課題とこれからの取り組みを、

図 1 生徒Aのワークシートの記述

② ワークシートのアンケート項目「仲間と学び合う活動を通して、自分の考えや提案を見直すことができたか」の肯定的評価の割合

本時のワークシートを評価した結果は、次の表2の通りであった。すべての生徒が4以上の肯定的な評価をしており、本時において班で意見を交換し、提案を選択する活動が、自分の考えや提案を見直すことにつながったと生徒たちが感じたことが分かる。仲間と学び合う活動の良さに多くの生徒が気付くことができたことと推測される。

表 2

質問項目	5	4	3	2	1
仲間と学び合う活動を通して、自分の考えや提案を見直すことができたか	13人	6人	0人	0人	0人

(※5よくできた→できなかった1)

(3) 今後の課題

① 生徒が主体的に学習できる単元構成の工夫

本時では、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、現実の社会と関わりのある課題を設定したが、一部の生徒はいつもと違う授業に戸惑いを感じ、意欲が低下してしまった。そのため、単元全体を通して、生徒が主体的に取り組める手立てが必要だと考える。単元の導入時に生徒の疑問をもとに単元を貫く課題を設定し、その課題を解決するためにどのよ

うな過程で学習をしていくか見通しをもたせ、生徒の様子に応じて適宜修正しながら追究活動を進めていく。そのような単元構成の工夫をしていきたい。

## ② 多面的・多角的に考察する学習活動の充実

本時では、資料をもとに様々な立場から考察することで、多角的な思考ができた。また仲間と学び合う活動を通して自分の考えや提案を見直し、自らの学びを深めることができた。そのため、このような学習活動をさらに充実させていく必要がある。ただし、今回は多面的な考察が不十分であったため、今後は多面的に考察ができるような手立てをしていく必要がある。社会的事象の「良い面」「悪い面」を考えたり、費用対効果や実現可能性で検証したり、優先順位を考えたりする学習活動を行い、社会的事象のもつ多面性に気が付けるような工夫をしていきたい。

### <参考文献>

- ・文部科学省.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』.東洋館出版社.2018.
- ・国立教育政策研究所.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 社会】』.東洋館出版社.2020.